

前宮周辺史跡ガイド

茅野市宮川高部



にゃ〜るほど！前宮 その2

- ・国譲り伝説では、天照大神（あまてらすおおかみ）から建御雷神（たけみかすちのかみ（鹿島さま））と天鳥船神（あめのとりふねのかみ（香取さま））が遭（つか）われ、建御雷神と建御名方命（たけみなかたのみこと（諏訪さま））と力比べをしました。建御名方命が負けて諏訪の地に留まると約束し、この地に降りました。
- ・この力比べが相撲の発祥といわれ、大相撲で懸賞金を受け取る手刀を切る時に「鹿島、香取、諏訪の神（かしま、かんどり、すわのかみ）」と文句を唱えた時代もありました。
- ・相撲との縁があって本宮に雷電の像があったり、貴乃花、千代の富士の優勝額が飾られています。



小袋石（おふくろいし）

- ・磯並社を登ると瀬神社（せじんじゃ）、穂股社（ほまたしゃ）、玉尾社（たまおしゃ）と続いて、小さなお社が点在していますが、目の前に突然巨石が現れます。なにかパワーを感じるゾ！
- ・大祝が職位するとき、磯並社と小袋石にお供え物をしました。



にゃ〜るほど！前宮 その3

諏訪の七石（しちせき）とは？

信仰の対象となっていた7つの石で、一説では次のとおりです。

- ・沓石（上社本宮境内）
- ・硯石（上社本宮）
- ・蛙石（上社本宮・現在不明）
- ・御座石（上社本宮か茅野市本町御座石神社）
- ・小袋石（茅野市宮川高部磯並社）
- ・亀石（元は茅野市宮川西茅野）
- ・児玉石（諏訪市湯の脇）

諏訪の七木（しちぼく）とは？

灌木（たたえのき）とも言われ、かつて湛えの神事が行われた場所ですが、峰の湛え以外はなくなってしまっています。名前、場所ともに定かではありませんが、一説では次のとおりです。

- ・桜湛木（茅野市玉川栗沢）
- ・真弓（榎）灌木（諏訪市湖南南真志野）
- ・干草（桧）灌木（茅野市玉川神之原）
- ・椽灌木（原村室内）
- ・柳湛木（茅野市本町）
- ・松木湛木（諏訪市中洲神宮寺）

峰の湛え（みねのたたえ）

- ・この場所に春の農耕神が降りたつとされ、湛えの神事が行われました。
- ・原始には巨木や巨石などに降りてくる神を信仰の対象としており、ミシャグチ神と言われていました。
- ・現在は諏訪の七木である樹齢約200年のイヌザクラを信仰の対象としています。
- ・イヌザクラの先代は松の木だったとも。
- ・諏訪の七木のひとつ。



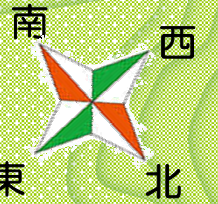
磯並山社（いそなみやましゃ）

- ・祭神は大山祇命（おおやますみのみこと）
- ・静香苑の建物の下にひっそりとお社があります。



夏直路廟（なすぐじびょう）

- ・御柱年に亡くなった守矢家の人々は、ここに埋葬されたという。
- ・お墓であるためか、静粛な空気を感じます。



静香苑

どんなに小さな祠にも
ミニ御柱！



玉尾社（たまおしゃ）



穂股社（ほまたしゃ）



瀬神社（せじんじゃ）

にゃ〜るほど！前宮 その4

諏訪の神と神職の継承は近代まで世襲で行われていました。

- ・現人神（あらひとがみ）である大祝（おおほうり）→諏方氏
- ・大祝に仕えた神職5官の職名と引継いでいる家
神長官（じんちょうかん）→守矢氏
祢宜太夫（ねぎだゆう）→守屋氏
権祝（ごんのほうり）→矢島氏
擬祝（まがいほうり）→伊藤氏
副祝（そえのほうり）→長坂氏

高過庵（たかすぎあん）、空飛ぶ泥船

- ・建築家藤森照信氏の作品で、基本的な用途は茶室だそう。この部屋で飲むお茶は、天にも登るおいしさかな。
- ・個人所有のため立ち入りはご遠慮を。



御左口神社（みしやくぐじしゃ）

- ・別名「御頭御社宮司社」
- ・祭神は土着の神であるミシャグチ神。
- ・御左口神社の総社と言われ、神長官守矢家が守っていました。
- ・お社には鹿の角が奉げられ、原始信仰の趣きを感じます。



神長官祈祷殿（じんちょうかんきとうでん）

- ・守矢家の祖先は、諏訪の土着の神であり、建御名方命が諏訪に来てからは神長官として、建御名方命の子孫といわれる大祝家を補佐する役割を担いました。
- ・この祈祷殿では、神長官が籠（こも）って祈祷を行ったとされています。



神長官守矢史料館（じんちょうかんもりやしりょうかん）

- ・神長官を務めていた守矢家に代々伝わる古文書や古図を展示しています。
- ・また、前宮十間廊で行われている御頭祭をイメージして鹿のはく製の首や神様に供えた山海の幸なども復元して展示しています。
- ・建物の設計は空飛ぶ泥船を作った藤森照信氏。



前宮本殿

おもて面のエリア

十間廊

内御霊殿

前宮社務所

子安社

至 宮川茅野

保育園

前宮前

高部東

至 諏訪 I・C

下馬橋

高部

高部公民館

至上社本宮

大祝諏方氏墓地（おおほうりすわしぼち）

- ・大祝諏方氏は、諏訪明神の現人神（あらひとがみ）として崇められていた一族で、中世まで諏訪上社領を治め

